

## 真の環境先進企業を目指して 全社的な環境経営マネジメントシステムを展開

今回の対談は地域環境、少子高齢化問題などの論説でお馴染みの東洋大学経済学部助教授の白石真澄氏をお招きし、コスモ石油の環境対応や国内外での社会貢献活動などの事柄について岡部会長に質問をしていただきました。

### マーケットが企業に 社会的責任を求める時代に

**白石** 現在、米国で起きている企業の会計不信の問題や国内の食品会社の安全管理体制の問題により企業の社会的、倫理的責任が厳しく問われています。投資という視点から見ましても、従来は企業の収益性や成長性といった財務的な側面が選択基準の中心でした。しかし、最近では、欧米の年金機関や投資信託で社会責任投資という流れが台頭してきました。企業の倫理観や環境対応といった社会的側面が投資判断に加わりました。個人株主の方も長期的な視点に立って、自分の投資した企業が社会的責任を果たすことで、社会全体が良くなることを望むようになってきています。そんな環境の変化に対し



てどのようにお考えですか。  
**岡部** 従来、日本の企業は当社も含めて、銀行からの借入金、つまり間接金融で資金を調達して経営をしてきました。それが、バブルの崩壊後は、マーケットから社債などを中心として資金調達する直接金融へと大きくシフトしてきました。現在、1,400兆円と言われる個人資産が投資信託、日本版401Kの年金運用という形で新たに市場に流入してきています。企業側から見ると新し

コスモ石油(株)代表取締役会長兼社長  
**岡部敬一郎**

東洋大学経済学部 助教授  
**白石真澄氏**

い株主の方への対応も大切になってきます。では、企業にとっての社会的責任とは何かと言えば、やはり第一は収益を上げて、納税をすることが基本条件です。その税金が地域社会に役立ち、ODAなどを通じて国際貢献にも繋がります。更にもその上で企業独自の社会的貢献が求められています。当社では全社的な環境経営マネジメントシステムを展開し、あらゆる事業に環境目標を設定しています。

**白石** 環境は企業にとっても地域社会にとっても大切な問題ですね。コスモ石油ではどのような視点から取り組みをされていますか。

**岡部** 地球環境問題は大きく8つに分けられます。温暖化、オゾン層の破壊、森林破壊、砂漠化、酸性雨、種の多様性の減退、有機物越境被害、海洋汚染があります。当社は石油という化石燃料を販売していますので、地球環境に対してネガティブな企業であるという認識に立って、地球温暖化防止ということの中

心に考えています。まずは、自社の事業エリアである原油の生産から精製、物流、販売全ての段階において、徹底した省エネを行う、それから硫黄酸化物や窒素酸化物などが極力少ない環境にやさしい製品づくりに取り組んでいます。これには過去にかなりの設備投資をして対応してきました、現在も新たな取り組みを進めています。

### SSにおける様々な環境対応への取り組み

**白石** 石油会社という私たちが一番身近なところではSS（サービス・ステーション）ですが、そこではどんな取り組みをしていますか。

**岡部** 太陽光発電システムを設置したSSを11ヶ所新設しました。また、SSのユニフォームをペットボトルをリサイクルした素材を50%以上使用したものに替えました。これはエコマークの認定も受けています。お客様が気楽に参加していただける環境対応として、当社が自主運営するクレジットカードに新

しくコスモ・ザ・カード「エコ」というカードを発行し、お客様に年間500円を環境保全活動を実践するNPO\*などの活動に寄付をしていただき、当社もお客様と共にカード売り上げの一部をささやかながら寄付する活動も展開しています。

**白石** お客様と共に活動できるのは、効果的ですね。ところで、今後、少子高齢化が進み、SSに来店する高齢者ドライバーが急増してきます。また、女性の社会進出により免許保有率も上がり、女性ドライバーも増加してきます。このような性別や人口構成比の変化に対して、SS側の対応はいかがですか。

**岡部** 当社のSSは現在、車検や整備、カーケア用品を販売するB-cle（ビークル）という設備を併設したネットワークを展開しています。高齢者ドライバーの方や女性ドライバーにも車に関することを気楽に相談していただける体制の整備でもあります。SSで車検や整備ができるということは、全てのお客様にとって利便性が高く、SSにとっ



#### 白石真澄氏プロフィール

東洋大学経済学部 助教授。専門は少子・高齢化と地域環境、バリアフリー。日本建築学会、日本都市計画学会、社会資本整備審議会及び交通政策審議会（国土交通省）などの公職をつとめる。著書に「福祉の仕事」（日経事業出版）、「新時代の都市計画」（ぎょうせい）など。



コスモ石油株式会社 岡部敬一郎会長兼社長

では新しい付加価値を構築できることとなります。これは、燃料油マージンに依存していた従来のSS経営から、新たに10兆円というカーケア市場をSSに取り込むことを視野に入れた取り組みです。

**白石** 最近では自分で給油するセルフSSの数が増えてきていますが、セルフSSにおけるお客様ニーズへの対応はどのようにされていますか。

**岡部** お客様の中には、SSでの接客がわずらわしいので、自分で給油したいという方が、若い方を中心にいらっしゃいますので、7月末現在で当社でも190ヶ所のセルフSSを展開しています。お客様ニーズへの対応と

しては、B-cleを併設してカーケア需要にも対応した店舗、セルフ給油に特化した店舗、洗車とオイル交換ができる店舗とお客ニーズを見極めた出店をしております。

### 中東や南太平洋の国々での環境社会貢献

**白石** 海外での環境対応というものには何か取り組まれていますか。

**岡部** 中東のUAE（アラブ首長国連邦）で、当社の子会社であるアブダビ石油（株）が経営している油田で原油を採油する際に出る随伴ガスを、今までは空气中で燃やして処理していたのですが、これを大型コンプレッサーで再び地下に戻す「ゼロフレア（炎を出さない）プロジェクト」を実施しています。これにより、燃焼が発生していた二酸化炭素の排出を大幅に削減で

きました。排出抑制量は、年間約20万トンとなり、東京ドーム12,000個分の森林が吸収する二酸化炭素の量に匹敵します。

**白石** 地球温暖化の問題はグローバルな取り組みが必要ですね。世界的に見ると、人口増加による環境負荷も大きな問題です。2050年には世界人口が100億を超えるという予測もあります。

**岡部** 人口増加は、一方で貧困の問題も生んでいます。その一例が、途上国で行われている焼畑農業\*による熱帯雨林の喪失です。焼畑によって作られた農地は地力が低下すると放置され、次々に新しい森林が伐採されて荒地が増えていきます。森林が減り、耕作面積が減るのに、人口は逆に増えていきます。当社は南太平洋の島嶼国パプアニューギニアやソロモン諸島で行われている焼畑農業を定地型農

## 用語解説

### NPO

医療、福祉、環境、文化、スポーツ、街づくり、平和活動などを行う営利を目的としない非営利組織。

### 焼畑農業

山林・原野を伐採してから火をつけ、その灰を肥料として、作物を栽培する農業。自然の回復力の範囲内であればむしろ環境への負荷は少ない。

業に転換する支援を行うために、現地調査をしたところ、収穫した米を精米する施設がないことが定地型農業移行への障害となっていたことが分かり、NPOに協力を形で現地に精米施設を寄付しました。ささやかな支援ですが、これが呼び水となって国や企業、NPOが役割分担しながら大きな流れができればいいと思っています。

**白石** 企業サイドだけでなく、国やNPOの方々と一緒にできる取り組みというのは一層効果



的だし、支援の幅も広がってきますね。そのような様々な環境への取り組みは、どのようなコンセプトと組織体制で行っているのですか。

**岡部** 環境という視点から経営を考えていきますと、色々新しい知恵が生まれてきます。当社は、昨年、会社全体の環境活動を検証して、環境報告書を作成し、関係団体から高い評価をいただきました。しかし、一方で課題も発見しました。今まで各部署が取り組んできた対応を全社的な環境マネジメントとして機能させていくために、今年度から3年間の環境中期計画「ブーア21」を策定しました。これには、全社的な目標とゴールビジョン、そして重点9分野にそれぞれ数値目標を明確化して、全社員が一体となって取り組んでいきます。組織的には常務会で計画を策定して、予算も



計上します。また、企画一部に環境室と広報室を設置し、内部のマネジメントと外部への広報を強化していきます。

### 環境技術開発にも 様々な取り組み

**白石** 環境保全には、人材育成やボランティア組織といった人的資源が重要なと同時に、化学的な研究も大切ですが、コスモ石油では環境分野の研究開発というのはどのような取り組みをされていますか。

**岡部** 石油事業の中では、製品の硫黄分などを削減するため

## 用語解説

### 余剰汚泥

排水処理の工程で、微生物が排水中の有機物に吸着し、酸化分解しながら増殖して沈殿し汚泥となります。沈殿した汚泥は再び廃水処理に再利用されますが、残りが余剰汚泥として最終処分されます。

### GTL技術

天然ガスの主成分であるメタンを反応性の高い合成ガスに転換した後、各種合成プロセスにより灯油・軽油などを製造する技術。



の脱硫触媒の開発に力を入れています。触媒の機能を高めることによって脱硫装置などへの新たな投資コストを低減することができます。また、微生物の力を活用したバイオテクノロジーで製油所からの産業廃棄物となる余剰汚泥\*を限りなくゼロに近づけたり、石油に汚染した土壌の浄化技術の開発にも取り組んでいます。また、新エネルギー関連では、石油系燃料を使用した家庭用の定置型燃料電池の開発をしています。燃料を化学反応によって改質して水素を取り出し（この段階ではCO<sub>2</sub>は発生しますが）、空気中の酸素と反応させ、発電します。水素と酸素の反応のため、排出されるのは水だけというクリーンなシステムです。現在、実用化に向

けて取り組んでいます。また、天然ガスを常温で灯油・軽油などの液体燃料に化学的に変換するGTL\*という技術にも取り組んでいます。これによってできる燃料は硫黄分などを含まないクリーンな燃料で、不純物を多く含む天然ガス田でも有効に活用できます。

**白石** 社会貢献活動はどのような取り組みをされていますか。

**岡部** 当社の社会貢献活動の基本方針として、業績に左右されない長期継続、社員自らの参画、オリジナリティのある活動という3つのポリシーを持っています。まず、今年で10年目となる活動で、交通遺児の小学生たちを社員ボランティアがキャンプに招く「コスモわくわく探検隊」を行っています。子どもにキャンプを体験してもらうだけでなく、森林が二酸化炭素の宝庫であることなど自然環境を楽しく学べる内容になっています。また、地球環境の問題について、学識者の方にコメントをいただき発行している当社の環境コメントリーマガジン「ダジアン」

を年3回発行しています。FMラジオ局と共同で全国の観光地の清掃活動を展開するクリーンアップキャンペーンなどにも取り組んでいます。また、協賛する音楽会なども全て環境を柱とした



内容になっています。

**白石** 企業活動の全てに「環境」という考え方が浸透されていますね。

**岡部** 当社は環境先進企業を目指していますが、実態はまだ途中段階と思っています。これからは、環境負荷の少ない製品を積極的に購買する企業や消費者層が増えてきます。本業でしっかりと収益を上げていくのと同時に、「環境で選ばれるコスモ石油」に変革していくことがこれからの課題と言えます。

## 価値創造21

# 合理化と新たな価値創造を推進し 企業価値の向上を目指す

新たな企業価値創造を目指した2ヶ年経営計画「価値創造21」について生産体制から物流、販売に至る事業別の01年度の実績と02年度の計画をご説明いたします。

96年からの石油製品の規制緩和以降、経済の低迷による産業界の需要減少やSSでの廉価販売が加速し、市場価格から原油価格を引いたスルーマージンが圧縮され、厳しい経営環境が続いています。このような環境のなか、当社は2001年度から「最強のコスト競争力を持つコ

スモネットワークの確立」と「真に顧客に愛されるコスモネットワークの確立」をゴールビジョンとした2ヶ年計画「価値創造21」に取り組んでいます。これは厳しい環境下でも競争力のある製品を提供していくための合理化と、新たな価値創造のビジネスモデルを構築することで、2年間で500億円の収益改善を目指すものです。01年度は171億円の実績を上げ、02年度の計画243億円と合わせ449億円を見込んでおり、これは当初目標に対し約90%の達成率となります。

価値創造21の実績と計画

(単位:億円)

		2001年度 実績	2002年度 計画	01年度実績と 02年度計画の合計	当初計画
合理化	供給	10	23	33	49
	販売	10	8	18	20
	物流	40	4	44	52
	管理他	10	7	17	21
	小計	70	42	112	142
価値創造	供給	21	26	47	39
	販売	60	162	222	253
	小計	81	188	269	292
販売子会社業績		20	13	33	30
前期前倒分				35	35
合計		171	243	449	500

## 全ての部門で合理化を推進

まず、合理化につきましては2ヶ年で142億円を計画し、01年度は70億円を達成、02年度は42億円を計画しています。

部門別に見ますと、供給部門では製油所において1kl当たりの精製コストを700円削減する

プロジェクトに取り組み、人件費の圧縮、保全費の削減を進め、新日本石油（株）との提携と合わせ01年度は10億円を達成しました。

販売部門ではスルーマージンの圧縮に対して、当社のスーパーバイザーと特約店・販売店が一体となって当社独自のSS経営指標を活用した合理化を進め、01年度は10億円を達成しました。

物流部門では、ローリーの製油所直送比率を向上させ、油槽所の削減を進めています。SSへの配送はインターネットを活用した受注システムと計画配送を進めていくことで、ローリーの稼働率の向上などに取り組み、01年度は新日本石油（株）との提携と合わせ40億円を達成しました。

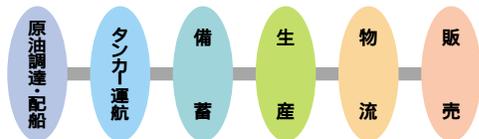
新日本石油（株）との提携の主な内容としては、外航タンカーの共同配船、両社の製油所の最適稼働を実現するプログラムによる委託精製、製品相互融通拡大などの取り組みを更に強化していきます。

## 販売部門を中核とした価値創造

価値創造につきましては、コスト削減の合理化策から一歩進み、コスモ石油グループ全ての部門において、従来のビジネスモデルから脱却して、新しい価値を創造していく取り組みです。2ヶ年で292億円を計画し、01年度は81億円を達成、02年度は188億円を計画しています。

## 全体最適オペレーションシステム

原油調達から生産・販売、在庫に至る  
SCMを基幹業務システムと連動



供給部門では、当社の製販一貫体制及び大消費地に近い製油所立地の強みを最大限に生かし、販売と生産装備力と原油選択の最適化を図ると共に、原油調達から生産・販売、在庫に至るSCM（サプライチェーン・マネジメント）を基幹業務システムと連動することで、生産付加価値の最大化を図ります。01年度は、当初予定を大幅に上回る21億円を達成しました。

販売部門における価値創造についてはSSリテールの強化を柱としています。当社の燃料油年間販売量におけるSSでの販売量は約31%ですが、収益面では65%を占めます。ここを強化していくことが価値創造の源泉です。SSの販売強化策として、まずは、セルフSSの展開を進めています。SSをセルフ化することで販売量が大きく伸長することが確認されています。当社はカーケア販売施設「B-cle（ピークル）」を併設するなどの3つのタイプの店舗「セルフ&B-cle」「ミッドレンジセルフ」「セルフピュア」への変革を進めています。

一方、カーケア市場は10兆円と言われ今後、

## SSリテールの強化

### 1 お客様ニーズに対応したタイプ別セルフSSの展開

	00年度	01年度実績	02年度計画
セルフ& B-cle	8	35	70
ミッドレンジセルフ	0	10	120
セルフピュア	8	40	60
その他	8	25	100
合計	24	110	350

(単位:ヶ所)

### 2 カーケアマーケットを取り込むB-cleネットワーク

	00年度	01年度実績	02年度計画
キーステーション	31	38	100
サテライト	37	183	400
合計	68	221	500

(単位:ヶ所)

### 3 コスモ・ザ・カードの発券促進による顧客のロイヤルカスタマー化

	00年度	01年度実績	02年度計画
カード有効会員数	162	185	225

(単位:万枚)

大きなビジネスチャンスが見込めます。車検・整備、洗車、オイル交換、カー用品などのカーケア販売施設「B-cle」併設SSの展開は、キーステーションB-cleSSとその近隣にあるサテライトB-cleSSをネットワーク化していくことで拡大していきます。

次に、コスモ・ザ・カードの発券促進によるロイヤルカスタマー(お得意様)の囲い込みにも注力しています。カード会員様は燃料

油購入量が多く、付加価値商品の購入量も大きいことが確認されています。

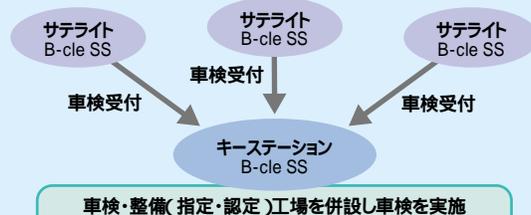
販売部門の価値創造は01年度で60億円を達成しました。

## グループ全体での企業価値向上を目指す

目標とする経営指標としましては、まずグループ全体の財務体質の強化策として、売掛債権の流動化、有価証券の処分、遊休地の売却によって借入金を返済し、有利子負債を03年3月末には4,000億円にまで圧縮し、資産効率を極大化していきます。中長期的な財務指標としては、株主資本利益率10%、自己資本比率20%、有利子負債依存度40%を目指しています。

「価値創造21」のゴールは2003年3月末です。これからの取り組みは価値創造が中心となります。全ての部門での価値を創出していくことがコスモ石油の企業価値の向上に繋がっていくものと考えています。

### B-cle(ビークル)ネットワーク



# 全ての事業活動に環境目標を明確化した 環境中期計画「ブーア Blue Earth 21」を策定

当社は、環境先進企業を目指して様々な取り組みを行っています。  
この度、全ての事業エリアにおける環境目標を明確にした  
3年間の環境中期計画を策定しましたので、その概要をご紹介します。



## 環境中期計画が目指すべき 目標とビジョン

現在、消費者や、取引先様などあらゆる方々が企業の環境対応や安全性を重視する傾向が強まっています。市場関係の方々も社会的責任を果たしている経営リスクの少ない企業との長期的な取引を模索し始めています。当社はこのような社会的背景に対応していくため、経営の中核に環境管理システムを組み込んだ環境中期計画「ブーア21」を策定し、環境経営を推進していきます。企業市民として社会的責任を果たし、経済性と環境を両立していくことで「環境で選ばれるコスモ石油」を目指していきます。また、環境負荷低減に積極的に取り組み、その情報を開示していくことで環境先進企業と評価される地位を確立すると共に、

### 環境中期計画 ブーア21 のスローガン

環境中期計画  
スローガン

環境で選ばれるコスモ石油  
真の環境先進企業を目指して  
企業市民として社会的責任を果たす  
環境保全と経済性の両立

当社独自の技術やノウハウを環境ビジネスに展開していくことで企業価値を向上させていきます。取り組みの枠組みとしては、製品の環境負荷低減などの「事業エリア内の環境改善・保全」、地球温暖化防止のための「CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）プロジェクト」、国内外の環境問題に取り組む「環境貢献プロジェクト」の3つの分野に対して、9つの重点施策を策定して、取り組みを進めていきます。

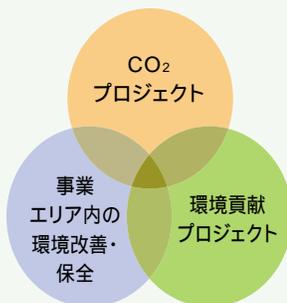
## 1 温暖化防止

原油開発から精製、物流、販売に至る全ての事業に一貫して温暖化ガスの削減に取り組んでいきます。経団連の自主行動計画を目標に取り入れると共にオフィスでの省エネを初め、各事業部門における自主的対応を推進していきます。また、京都議定書に基づいた京都メカニズム(排出権取引\*、JI\*、CDM\*などの柔軟措置)や新エネルギーにも取り組んでいきます。

### 事業所での省エネ

製油所では2010年までにエネルギー消費原単位10%削減(1990年比)の目標を設定。04年度ま

## ブーア21の枠組み



### 環境中期計画 ブーア21

- 1 温暖化対応
- 2 汚染物質の削減
- 3 土壌環境対応
- 4 省資源
- 5 製品の環境負荷低減
- 6 グリーン購入
- 7 研究開発
- 8 環境貢献プロジェクト
- 9 環境経営推進施策

で9.2%削減を目標。タンクローリー、船舶燃料消費量削減、本社の省エネにつきましても、体制を構築し、取り組んでいきます。

### 京都メカニズムの運用

オーストラリアでの排出権のオプション取引や子会社のアブダビ石油(株)が行っているゼロフレアプロジェクトのCDM化を推進します。

### 新エネルギー

2002年度中に11ヶ所のSSにソーラーパネルを設

置します。風力など、その他の自然エネルギーについてもノウハウを蓄積し、CO<sub>2</sub>の排出削減と経済性を検証し、今後の取り組みに繋げていきます。

## 2 汚染物質の削減

大気、排水への汚染物質の排出を法規制以下に維持します。VOC\* (揮発性有機化合物)の蒸気の排出については独自の自主規制を設定し、取り組みます。また、産業廃棄物の排出ゼロを推進します。

### 大気汚染防止

窒素酸化物(NO<sub>x</sub>) 硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)は規制値以下を維持します。VOCに関しては製油所、油槽所の入出荷設備への回収装置導入を検討し、結果に応じて順次設置します。これを基に03年以降の計画を策定します。

### 水質汚染防止

製油所などの排水中のCOD(化学的酸素要求量)は規制値以下を維持します。

### 産業廃棄物の削減

製油所の最終処分量ゼロを目指して、02~04年

## 用語解説

### 排出権取引

CO<sub>2</sub>の排出枠が設定されている先進諸国間で排出枠の一部を取引すること。

### JI (Joint Implementation)

共同実施。先進諸国間で、温室効果ガス排出削減・吸収促進事業を実施し、その結果生じた削減単位を関係国間で移転すること。

### CDM (Clean Development Mechanism)

クリーン開発メカニズム。CO<sub>2</sub>の排出枠が設定されている先進諸国が、排出枠を有しない途上国において実施した温室効果ガスの排出削減事業から生じた削減分を獲得することで、その先進国のCO<sub>2</sub>削減目標の達成に利用できる制度。

### VOC

ベンゼン、トルエンなどの揮発性有機化合物の総称。大量に大気中に放出されると光化学スモッグなどの原因や、人体の健康に悪影響が出ると言われているため、製油所の出荷設備には回収装置を設置している。

平均で90年削減比率81%を目指します。

### 3 土壌環境対応

「土壌環境保全に関する取り組み方針」に基づき、事業サイト別の実態把握と、全社的なリスク低減施策を実践していきます。

#### 製油所・油槽所

全製油所・油槽所のボーリングなどによる土壌調査を02年度から実施します。調査に基づいた改善策を順次実施します。

#### SS地下タンク

全対象SSの地下タンク調査を02年度中に実施し、その調査結果に基づいた改善策を順次実施していきます。また、SS地下タンクの設備診断システム（タンクノロジー）の導入による低コストでの診断と予防策を推進します。

### 4 省資源

3R（Reduce：投入資材/ごみの削減、Reuse：再利用、Recycle：再資源化）を有効に活用して、全社で「ごみゼロ」を推進します。

#### 紙の省資源化

コピー用紙の両面使用などにより紙の購入量を2000年比04年度40%削減します。使用済みコピー用紙や新聞、雑誌、紙コップなどは04年度までに100%再資源化します。

#### 事務用品省資源化

事務用品に関してはグリーン購入を推進すると共に、分別回収、中古事務用品のリユースなどによ

り04年度までに100%再資源化します。

#### 製油所の生ごみ

製油所の食堂から出る生ごみは堆肥化などにより04年度までにゼロにします。

#### 水資源

SS排水リサイクル装置を設置していきます。

### 5 製品の環境負荷低減

品質規制に対応したガソリン・軽油の供給体制を推進していくと共に、今後予想される新たな規制強化にも対応できるクリーン燃料の取り組みをしていきます。

#### 軽油対応

硫黄分50ppmの製品出荷を東京都向けには02年度中に、全国向けには03年度から出荷します。

#### ガソリン対応

硫黄分など今後予想される新たな規制強化にも対応できる製品出荷体制を構築します。

### 6 グリーン購入

事務用品だけでなく、先進的取り組みとされる副資材（製油所で使用する触媒や容器など）や資機材（SSの屋根や建築資材など）、工事契約などを含めた包括的なグリーン購入（環境への負荷が小さい製品やサービスを提供する会社から優先して購入すること）にグループ全体で取り組みます。

#### 事務用品

2002年度までに購入金額の60%、04年までに80%のグリーン購入比率達成を目標とします。

## 副資材、資機材その他

2002年度までに定量化し、04年度までに目標を設定します。

## 7 研究開発

余剰汚泥（6頁参照）の減量化や製品の低硫黄化のための触媒の開発などの「石油事業支援」、ペーパー吸着・回収などの自社技術開発による「環境ビジネス対応」、燃料電池開発などの「新エネルギー」、硫黄を利用した「環境プロジェクト対応」などの研究開発を推進します。

### 石油事業支援

製品の環境負荷低減のために今後予想される新たな規制にも対応した低硫黄軽油用の触媒開発、低硫黄ガソリン製造用の脱硫触媒開発を推進します。

廃棄物削減のために投入する触媒量の削減を検討します。また、定期整備時に出る廃材、廃触媒の削減を進めます。

土壌対応のために石油汚染土壌の評価法の確立と実サイトへの適用を進めます。

### 環境ビジネス対応

VOC吸着・回収に関する技術開発を通じて、環境ビジネス・プロジェクトを支援します。

### 新エネルギー

天然ガスの液体燃料化（GTL）のプロセス開発や、燃料電池システムの開発を推進しています。

### 環境プロジェクト対応

硫黄などによる緑化技術の開発を推進しています。

## 8 環境貢献プロジェクト

### 環境貢献活動の考え方

石油エネルギーは、私たちが現在享受している経済的繁栄の原動力となってきました。一方、この経済的繁栄は「先進国」「発展途上国」という2極化構造を生み、地球環境に負荷を与えてきました。コスモ石油は次世代に豊かな社会を繋いでいく責務、即ち持続的発展を支える責務を自覚し、企業市民として環境貢献活動を実施、継続して支援していきます。

1. 国内外の「環境の改善」と「環境保全」活動
2. 次世代を担う子どもたちへの教育・啓発活動

### エコカード・プロジェクト

コスモ・ザ・カード「エコ」の会員様からの寄付と、当社カード売上の一定割合の寄付を合わせて、当社が独自に



コスモ・ザ・カード「エコ」

選んだ環境貢献プロジェクトをNPOや現地政府などと協力しながら実践していきます。また、カード会員誌やマスコミなどを通じて、寄付が実際にどのプロジェクトに、どのように役立てられたかを詳細に開示していくことで、共感していただける会員様のネットワークを広げていきます。

### 熱帯雨林保全プロジェクト

熱帯雨林破壊の要因となっている焼畑農業を定地型農業へ転換していくために循環型農業技術の指

導、農業資機材の支援を行っています。

### 国内希少自然保全プロジェクト

富士山、屋久島、白神山地で環境保全活動に取り組みます。

### 棚田保全プロジェクト

過疎・高齢化により荒廃が進む中山間地域の棚田で、小学生を対象とした農業体験学習を実施することにより、棚田の持つ機能や、日本の自然への関心を高める環境教育を実施します。

### 社会貢献プロジェクト

#### コスモわくわく探検隊

交通遺児の小学生を毎年8月に社員ボランティアがキャンプに招き、自然の貴重さを体験してもらう「コスモわくわく探検隊」を実施しています。

#### クリーンアップキャンペーン

FMラジオ局と共同で全国クリーンアップキャンペーンを行っています。

#### 「ダジアン」発刊

環境問題について学識者からのコメントを掲載した広報誌「ダジアン」を年3回発行しています。

#### 子ども向けコンサート

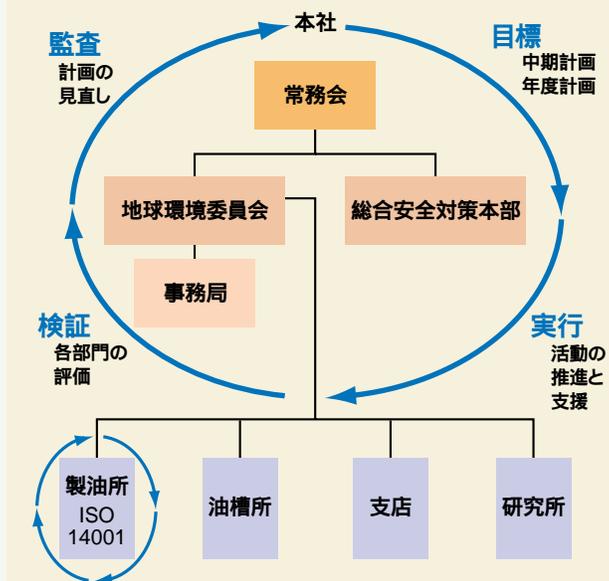
環境をテーマにしたコンサートを開催しています。

員会が執行、全社的に環境経営を進めていく組織体制に刷新することで、環境を経営の中に位置づけました。新体制のもと、環境中期計画に取り組みむことで質の高いパフォーマンスと活動の透明性を確保、継続していきます。

### 管理体制の確立

全社対応環境管理体制によるPDCA（目標、実行、検証、監査）の実践、環境負荷情報の積極的開示により危機管理を推進します。

環境経営推進組織図



トップダウン型の環境推進体制を構築し、継続的な改善を推進

## 9 環境経営推進施策

環境に関する意思決定を常務会でを行い、具体的な施策については地球環境委

## セルフSSの新ブランド 「i serve」がスタートしました

当社はSS販売の強化を図るため、お客様ニーズに合わせたタイプ別のSSの展開を進めています。その一環として、お客様自身に給油していただく



「i serve」1号店、横浜市のセルフビュー機能

セルフSSへの転換及び新規出店を推進しています。この度、お客様にとってセルフSSであ

ることが分かりやすいこと、且つ親しみやすさと、使いやすさを高めていくことを目的に、新ブランド「i serve」(アイサーブ、自分が給油する)をスタートしました。SS建設に関しては低価格で、工期も短縮します。環境にも配慮し、資機材は全てリサイクル可能なものを使用、消費電力も従来より55%削減した設計となっています。今後全国に展開していきます。

## 燃料電池自動車向け水素供給ステーションの実証研究の設備・運営に当社が決定

当社は、燃料電池自動車への燃料供給インフラの実用化に取り組んでいます。この度、資源エネルギー庁補助事業「水素・燃料電池実証プロジェクト」のなかで、当社は「水素供給ステーション」の設置・運営を行うこととなりました。これは、当社が独自に蓄積した水素製造技術により、不純物などをほとんど含まないガソリン留分を用いて、燃料電池自動車の燃料である水素を効率的に供給する次世

代のサービスステーションです。本実証参加を通じて、今後とも水素供給インフラの実用化に積極的に取り組んでまいります。



横浜市鶴見区に設置予定の水素供給ステーション完成予想図

## 天然ガスから液体燃料を製造する触媒の開発に成功

当社は、石油公団の特別研究である「天然ガス液体燃料化（GTL）技術」に参画し、触媒の開発を進めた結果、ルテニウムという金属を主成分とする新しい触媒を見出しました。今後、公団が運営する北海道苫小牧市勇払の実験プラントで触媒性能の実証化試験と、生産される製品の評価を行っていきます。



実証化試験が行われている北海道苫小牧市勇払のプラント

## 「コスモ アースコンシャス アクト in Mt. FUJI 2002」を開催

当社は、地球環境の保護と保全を呼びかける運動をTOKYO FM及びJFN加盟37局と共に展開しています。その一環として8月3～4日に「コスモ アースコンシャス アクト in Mt. FUJI 2002」を開催し、コンサートと共に富士山の清掃登山を行いました。ラジオのリリスナーや当社社員ボランティア計172名が参加し、45リットル袋で可燃ごみ12袋、不燃ごみ12袋を回収しました。



## インターネットショッピングサイトで「心と体においしいもの」を販売

当社ネット事業部では、インターネットのショッピングサイト「コスモショッピング」を運営しています。取扱商品は「健康・環境」をキーワードに、天然素材にこだわった食品、家庭用品などを揃えています。

商品例：ミオジャム「ジャムの王様」  
フランスなどのジャムコンテストで幾多の金賞を獲得。ミックスジャムの極致とも言える未体験の味。もちろん無添加です。

詳細・ご注文は下記へ

URL : <http://www.cosmo-shopping.com/>

Email : [shop-info@cosmo-oil.co.jp](mailto:shop-info@cosmo-oil.co.jp)

電話 : 03-4434-5466

ミオジャム  
「ジャムの王様」  
1,850円



## 「アニュアルレポート2002」 「環境報告書2002」を発行

当社は、より透明性の高い企業を目指し、様々な角度で情報開示の充実を目指しています。この度、当社の事業概況をお知らせする「アニュアルレポート2002」と当社の環境保全活動などを掲載した「環境報告書2002」を発行しました。環境活動のトピックスをまとめた「グリーンレポート2002」も発行予定です。いずれも当社のホームページ( <http://www.cosmo-oil.co.jp> )で閲覧いただけます。また、送付ご希望の方はアンケートはがきでお申し込みください。



英文アニュアルレポート2002



環境報告書2002

## コスモの 社会貢献活動

### コスモ石油グループ社員による 「第10回コスモわくわく探検隊」開催

当社は、石油会社という事業特性から車社会への社会貢献活動の一環として93年から交通遺児の小学生を対象とした自然環境体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を開催してきました。今年度より小学生向け環境教育プログラム「コスモ子ども地球塾」を立ち上げ、「第10回コスモわくわく探検隊」もその一環として、今まで以上に環境教育に重点を置き、「君の地球を探しに行こう」をテーマに8月8日から3日間の日程で、静岡県富士宮市朝霧高原で実施しました。



子どもたちが描いた「住みたい街」を木の枝で組み合わせて「地球」を作りました。



「住みたい街」を制作中

今回もチョモランマや富士山での清掃登山で活躍されているアルピニストの野口健さんをゲストに迎え、なるべくごみを出さない野外料理を楽しんだり、夜はキャンプファイヤーの火を囲みながら、子どもたち一人ひとりに地球環境の大切さについて語りかけていただきました。

当社からは森川常務取締役を隊長に、社員スタッフ17名が2ヶ月に渡る研修やミーティングを積み重ね、プログラムの企画・運営に携わり、46名の児童と3日間を共にしました。今後も同活動を通じて、コスモグループ社員のボランティア活動の普及に努めて参ります。



富士樹海のブナの林の中を自然観察しながら散策しました



なるべくごみを出さないように気を配って野外料理を体験しました



子どもたちとスタッフでたくさんの思い出を作りました